ひろかだより

第307号
平成30年2月1日
発　行
弘果 弘前中央青果株式会社
弘前市大字末広１丁目2-1
ＴＥＬ　0172-27-5511
ＵＲＬ　http://www.hiroka.jp

弘前水産
市場開放 土曜市
毎週土曜日 午前7時～午前10時
好評開催中!!
※市場休市日は休みです。

初市

各市場活気あふれ 平成30年がスタート

弘果（りんご、青果）、津軽りんご市場、弘前花きの弘果グループ3市場で1月5日、平成30年初市が行われ、生産者、買参人、関係者が多数来場し賑わいました。

当日は弘果と津軽りんご市場で、消防団による纏振り、新年の挨拶、手締め、鏡開き、乾杯等のセレモニーが行われ、平成30年最初の取引が幕開けとなりました。

大玉の買気活発で活気付く弘果りんご初市

りんご

午前８時45分より弘果で行われたりんご初市には、１万３００３箱（前年比70．７％）が上場され、生産者約１０００人、買参人約２００人が来場しました。

競売では、29年産が小玉傾向であったことから、大玉を中心として、海外需要への引き合いが特に強く、「サンふじ」上実が高値１０８００円（前年比１１１．１％）、中値６４８０円（同１０９．１％）、安値４８６０円（同１０４．７％）となり、高値基調だった前年の初市を上回る結果となりました。

葛西静男専務は初市にあたり「大玉の買気が活発で上々のスタートとなった。１月下旬には他県産りんごが終了し、他の果実が少ない状況から、県産りんごの引き合いが強まるのではないか」と今後の展望を話していました。

青果

野菜、国産果実、輸入果実の初市が午前６時30分より行われました。県内野菜は「ほうれん草」「小松菜」「春菊」「せり」などの葉物、「生椎茸」などの菌茸類、「牛蒡」等、県外野菜は「大根」「白菜」「キャベツ」の大型野菜や葉物類が取引されました。

前年の初市と比較して、県内野菜は入荷増ながら単価は平年並みでしたが、県外野菜は入荷減の単価高で取引されました。担当者は初市の状況と今後の見通しを「昨年11月、12月の寒さにより県外野菜の入荷が減り、単価高だった昨年の止市と比べ更に高い単価で推移しているので、消費が鈍くなっています。今後は天候にもよりますが、県外産の入荷が増え、単価が落ち着くのではないか」と話していました。

県内果実は「スチューベン」、県外果実は栃木県産「いちご」中心の入荷となりました。「スチューベン」は小房傾向による減収、「いちご」は出回り量が少なかったことから共に引き合いが強く、堅調な販売となりました。今後の見通しとして、県内果実は「スチューベン」が終盤を迎え、田舎館産「いちご」が販売の中心となり、県外果実は「みかん」が昨年に比べ生産量が少なく、早い切り上がりとなり、「いちご」と「中晩柑橘類」の入荷が中心となります。

輸入果実は、「バナナ」「オレンジ」「パイン」「アボカド」「キウイ」「スウィーティー」が中心の販売となりました。今後はフィリピン産商品が昨年12月の台風による入荷減、アメリカフロリダ産の「グレープフルーツ」がハリケーンの影響による入荷減となり、また、中国、台湾の春節需要により果物の引き合いが強まるため、単価高での取引となる見込みです。

青果初市に先立ち行われた消防団による纏振り

弘前花き

午前11時より行われた初市では、「菊」「ユリ」「ラン」などの業務用の花をはじめ、「バラ」「カーネーション」等の切り花類等が入荷となりました。

初市と今後について池田満取締役部長は「年末の天候不順により、販売業者の荷動きが良くなかったこと、また、年明けも入荷量が少ない状況から販売が懸念されましたが、値崩れなく取引されました。今後は、消費拡大を最大の課題として取り組んでいきたい」と話していました。

津軽市場

午前７時30分より行われた初市には、生産者約２５００名、買参人約１００名が来場し、８１６３箱（前年比70．２％）が上場されました。

競売では「サンふじ」が上実で高値９７２０円（前年比１０５．９％）、中値６４８０円（同１０９．１％）、安値４８６０円（同１０４．７％）となり、前年を上回る単価で取引されました。

石戸谷繁副社長は「消費地からの引き合いが強く、また、しっかり選果されたりんごが上場されたことで取引が活発となり、幸先の良いスタートとなりました」と話していました。

活発な取引となった津軽りんご市場初市

りんご無冷蔵品等早期出荷のお願い

29年産サンふじは果肉先行型で、特にツル割れなどに障害が発生する恐れがありますので、無冷蔵品と併せて早期出荷をお願いいたします。

今が旬

アスパラ菜

中国野菜にルーツを持つ「アスパラ菜」は、アブラナ科である菜の花の仲間で、食べたときの歯ごたえと甘い風味が「アスパラガス」と良く似ていることからその呼び名が付いたとされています。

弘前市川合の小堀農園では、温泉熱を利用してハウス内の地温を調節し、冬季に野菜を栽培しています。「アスパラ菜」は6棟のハウスで栽培されており、園主の小堀博文さんは「播種時期を変え、温度等ハウスの状態を管理して、冬期間通して安定した生産ができる様、心掛けています」と話していました。

「アスパラ菜」はベータカロテン、ビタミンB群、ミネラルが豊富で、お浸しやカラシ醤油和え等、素材を活かすシンプルな調理がお薦めです。2月下旬まで収穫・出荷されますので、是非お買い求めいただきご賞味ください。

ロイヤルクイーン

「ロイヤルクイーン」は「深紅のストロベリー」と称される大果系のいちごで、果肉は中心近くまで赤く、甘く、香り高く、ジューシーな味わいが特徴です。当社では「ハローキティつがりあん」ブランドとして販売しております。

田舎館いちご研究会の工藤弘樹さんは、昨年から「ロイヤルクイーン」の栽培を始め、12月下旬から収穫が始まり、現在ピークを迎えています。

工藤さんは「初めて栽培する品種なので、日々試行錯誤しています。生産者としては1シーズンを終えてからの結果で判断する事となりますが、中まで赤いので見栄えが良く、色、大きさ、食味も申し分なく、将来性があると思う」と話していました。

「ロイヤルクイーン」は6月まで収穫、出荷されます。

「農(のう)」の「業(わざ)」を継ぐ 期待の後継者

家業である「農業」に希望を見出し、夢に向け努力する期待の後継者を紹介します。

八木橋 貴久(たかひさ)さん (42)

【家族構成】妻、子供の3人家族
【住所】弘前市高杉
【作付状況】りんご1.8ヘクタール、桃10アール
【就農年】2016年
【きっかけ】りんご農家に生まれ育ち、高校卒業後はサラリーマンとして働きながら、合間に家業の手伝いをしていました。やがて自分を取り巻く環境が徐々に変化し、家業を親の代で終わりにしたくない気持ちと、新しい事にチャレンジしたい気持ちが芽生え、悩み考えた末、就農を決意しました。
【現在】手伝いをしていたとはいえ、それは農業の一部分を見ていたに過ぎず、本格的に就農してみて理解したことや苦労したことが多々あります。また、チャレンジの一環として桃の栽培を始め、地域の同級生らが中心となって組織する「桃娘(ももこ)倶楽部」に入会し、栽培技術向上に励んでいます。自分は農業を生業とする上で、頼りとなる良き師匠(親)や仲間に恵まれていると思います。
【夢・展望】桃の栽培面積を増やし、農業経営の幅を拡げていきたい。また、新しい情報や技術を取り入れ、消費者のニーズに応え、且つ生産側から発信していける様な農作物の商品化にもチャレンジしていきたい。
【座右の銘】「何事に対しても感謝の気持ちを忘れない」「相手の立場に立って物事を考える」常にこの2つを心掛けています。

青森県スキー選手権

スキーレーシングクラブ 弘果SRC HIROKA SKI RACING CLUB

開坂優選手 予選通過で全国の舞台へ!

第73会国民体育大会冬季大会、第96回全日本スキー選手権大会の県予選を兼ねた青森県スキー選手権大会が1月16日から21日にかけて、大鰐町の大鰐温泉スキー場に於いて行われ、弘果スキーレーシングクラブの開坂優選手が2日目の5㎞クラシカル競技、3日目の5㎞フリー競技、最終日の10㎞フリー競技に出場しました。

ラストの急勾配を快走する開坂選手(5㎞女子フリー)

大会では、弘果大応援団の熱い声援を受け快走、5㎞クラシカル成年B(25歳以上)では初優勝を果たし、5㎞フリー、10㎞フリーでは健闘及ばず2位となりました。

予選通過を果たし、国体、全日本スキー選手権への出場が決定した開坂選手は「来たる大会の大舞台で表彰台に上がりたい」と意気込んでいました。

全国の舞台での開坂選手の活躍に、皆様の応援よろしくお願い致します。

【大会結果】
1月17日(水)
女子5㎞クラシカル競技(成年B)
1位 16分3秒9

1月18日(木)
女子5㎞フリー競技
2位 14分10秒2

1月21日(日)
女子10㎞フリー競技
2位 31分22秒6

新春剪定勉強会開催

弘果りんご連絡協議会と津軽りんご市場連絡協議会の剪定勉強会が1月上旬、6会場に於いて行われ、生産者約1200名が剪定技術の向上、高品質生産を目的に参加しました。

講師の実演から学ぶ参加者

勉強会では、講師が方角や樹勢等を判断し剪定を実演、参加者は自身のやり方と比較して講師に質問を行う等、意欲的に学んでいました。

参加した生産者は「29年産が小玉傾向であった事を踏まえ、30年産のスタートである剪定から栽培管理をしっかり行い、大玉生産に繋げたい。実演が大変参考となったので、剪定に活かしていきたい」と話していました。

第13回
ゴニンカン弘果カップ
2月21日(水)
青森県立武道館
申込締切 2月10日(土)
申込受付は弘果および津軽りんご市場の産地担当者または各精算所窓口まで